

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 5 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 人間の尊厳の意義や人権について理解する。 ② 尊厳の保持を理解する。 ③ 介護における自立支援について理解する。 ④ ノーマライゼーションを理解する。 ⑤ 利用者のプライバシー保護、権利擁護など、介護の基本的な概念を理解する。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護 するなど、介護の基本的な理念を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける 、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第1巻「人間と社会」 第1章 人間の尊厳と自立 (P2～48P) 第1節：人間の多面的な理解と尊厳 第2節：自立の支援 第3節：人権と尊厳		
*質問はFAXにて受け付ける。回答はF A X、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト 第 1 巻 第 4 版「人間と社会」 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWABシステムe-ラーニ ングによる通信修了評価の合格点が7割以 上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解 I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 5 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 介護保険制度の創設をめぐる社会的背景や、基本理念を理解する。 ② 介護保険制度の体系、目的を理解する。 ③ 介護保険制度のサービス種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。 ④ 介護保険制度における専門職の役割を理解する。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第1巻「人間と社会」 第2章 介護保険制度の理解 (社会の理解 I) (P50~P99) 第1節：介護保険制度創設の背景と目的 第2節：介護保険制度の基礎的理解 第3節：介護保険制度における専門職の役割  * 質問はFAXにて受け付ける。回答はF A X、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト 第1巻 第4版「人間と社会」 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システム II (e-CHJ) 中央法規のWABシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解Ⅱ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 30時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 家庭、家族、地域など、社会と生活のしくみを理解する。 ② 地域共生社会と地域包括ケアシステムについて理解する。 ③ 社会保障制度の意義や役割、目的等を理解する。 ④ 障害者総合支援制度と制度における組織・団体の機能と役割等について理解する。 ⑤ 介護サービスの利用、介護実践、生活を支える諸制度について理解する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第1巻「人間と社会」 第3章 社会のしくみの理解 (社会の理解Ⅱ) (P102~P270) 第1節：社会と生活のしくみ 第2節：地域共生社会の実現に向けた制度や施策 第3節：社会保障制度 第4節：障害者総合支援制度 第5節：介護実践にかかわる諸制度  * 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト 第1巻 第4版「人間と社会」 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本 I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 10 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 介護福祉士の役割と機能について理解する。 ② 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開について理解する。 ③ 介護福祉士の倫理について理解する。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時における介護福祉士の役割を理解している。 ○個別ケア、ICF (国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 2 巻 「介護 I 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」 第 1 章 介護福祉士と介護の考え方 (介護の基本 I) (P2~P60) 第 1 節：介護福祉士の役割と機能 第 2 節：尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 第 3 節：介護福祉士の倫理  * 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 2 巻 第 2 版 「介護 I 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システム II (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が 7 割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 介護を必要とする人の生活の理解と支援について理解する。 ② 介護実践における連携について理解する。 ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解する。 ④ 介護従事者の安全について理解する。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ○リスク分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ○介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第2巻 「介護Ⅰ 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」 第2章 介護福祉士による介護実践 (介護の基本Ⅱ) (P62～P128) 第1節：介護を必要とする人の生活の理解と支援 第2節：介護実践における連携 第3節：介護における安全の確保とリスクマネジメント 第4節：介護福祉士の安全		
*質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第2巻 第2版 「介護Ⅰ 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項) ] ① 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて理解する。 ② 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーションについて理解する。  [授業修了時の達成課題 (到達目標) ] ○本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーション技法を選択し活用できる。 ○チームマネジメント (組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等) に関する知識を理解し、活用できる。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第2巻 「介護Ⅰ 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」 第3章 コミュニケーション技術 (P130～P218) 第1節：介護におけるコミュニケーション 第2節：介護におけるコミュニケーション技術 第3節：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 第4節：介護におけるチームマネジメントのコミュニケーション  *質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第2巻 第2版 「介護Ⅰ 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 生活支援と ICF について理解する。 ② ボディメカニクスの活用について理解する。 ③ 生活支援技術の基本について理解する (移動、移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)。 ④ 環境整備、福祉用具活用等の視点について理解する。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○自立に向けた生活支援技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) を習得している。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 2 巻 「介護 I 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」 第 4 章 自立に向けた生活支援技術の基本 (生活援助技術 I) (P220~P358) 第 1 節：生活支援と ICF 第 2 節：居住環境の整備と福祉用具の活用 第 3 節：移動・移乗の生活支援技術の基本 第 4 節：食事の生活支援技術の基本 第 5 節：入浴・清潔保持の生活支援技術の基本 第 6 節：排泄の生活支援技術の基本 第 7 節：着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術の基本 第 8 節：家事援助の基本		
* 質問は FAX にて受け付ける。回答は F A X、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 2 巻 第 2 版 「介護 I 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システム II (e-CHJ) 中央法規のWABシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が 7 割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 30時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術について理解する。 ・環境整備 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、 口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具の活用		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。 ・環境整備 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、 口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具の活用		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第2巻 「介護Ⅰ 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」 第5章 利用者の心身の状態に応じた生活支援技術 (生活援助技術Ⅱ) (P360～P473) 第1節：環境整備と福祉用具等の活用      第2節：移動・移乗の生活支援技術 第3節：食事の生活支援技術                  第4節：入浴・清潔保持の生活支援技術 第5節：排泄の生活支援技術                  第6節：着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術 第7節：休息・睡眠の生活支援技術 第8節：人生の最終段階における介護の生活支援技術  * 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第2巻 第2版 「介護Ⅰ 介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 介護過程の基礎的知識について理解する。 ② 介護過程の展開について理解する。 ③ 介護過程とチームアプローチについて理解する。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 3 巻 「介護Ⅱ 介護過程」 第 1 章 介護過程の基礎的理解 (介護過程 I) (P2～P50) 第1節：介護過程の意義と目的 第2節：介護過程の展開 第3節：介護過程とチームアプローチ		
* 質問はFAXにて受け付ける。回答はF A X、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 3 巻 第 2 版 「介護Ⅱ 介護過程」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWABシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 25時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] 介護過程の展開の実際。 ①利用者の状態 (障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等) について事例を設定し、介護過程を展開させる。 ②観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。 。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第3巻 「介護Ⅱ 介護過程」 第2章 介護過程の展開の実際 (介護過程Ⅱ) (P52～P129) 第1節：介護職による介護過程の進め方 第2節：介護過程の実践的展開 第3節：施設で暮らす高齢者の介護過程 第4節：在宅で暮らす高齢者の介護過程 演習課題 【演習課題】 介護老人福祉施設で生活するGさんの事例  * 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第3巻 第2版 「介護Ⅱ 介護過程」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ	授業の種類（該当するものを選択） 【 講義（通信）・講義（面接授業）・演習（面接授業） 】	
授業担当者 遠藤 淳二 他	時間数(単位数) 4 5時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい（教育に含むべき事項）] ①介護過程の展開の実際。 ・多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。 ②介護技術の評価。 ・介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。		
[授業全体の概要] ○介護過程の基礎知識と応用 ○演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ） ○テキスト・プリントの事例に基づいた介護技術の評価 ○試験実施、解説		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1日目：介護過程の基礎知識と応用・演習 2～4日目：演習（テキスト事例を用いたグループワーク・ロールプレイ） 5日目：テキスト事例に基づいた介護技術の評価と試験		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修（450時間研修）テキスト第3巻 「介護Ⅱ 介護過程」 第3章 介護過程の展開の実際（介護過程Ⅲ）（P132～P224） 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 事例1：片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援 事例2：在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援 事例3：都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援 事例4：介護老人保健施設で生活する利用者への支援 *質問は演習会場にて時間内に受け付ける。回答は基本的にその場で行う。その場での回答が困難な場合は、次回に行う。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修（450時間研修）テキスト 第3巻 第2版「介護Ⅱ 介護過程」中央法規出版 その他、適宜プリント配布	[単位認定の方法及び基準] 修了評価（実技試験） 100点満点中、70点以上で合格であること。 （70点未満の者は再度試験・評価を行う）	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ころとからだのしくみ I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] 介護に関連した基礎的な身体の仕組みを理解する。 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息、睡眠等)		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 「ころとからだのしくみ」 第1章 介護に関連するからだのしくみ (ころとからだのしくみ I) (P2~P45) 第1節：移動・移乗に関連するからだのしくみ 第2節：食事に関連するからだのしくみ 第3節：入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ 第4節：排泄に関連するからだのしくみ 第5節：着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ 第6節：休息・睡眠に関連するからだのしくみ		
* 質問はFAXにて受け付ける。回答はF A X、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 第3版 「ころとからだのしくみ」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システム II (e-CHJ) 中央法規のWABシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 60時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 人間の心理の基本を理解する。 ② 人体の構造と生命の維持、機能、ボディメカニクスの活用を理解する。 ③ 身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメント・連携のポイントや、各介護内容を阻害する要因、留意点を理解する。 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護		
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 ○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察、アセスメント、関連する職種との連携が行える。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 「こころとからだのしくみ」 第2章 心身の構造・機能と介護における観察のポイント (こころとからだのしくみⅡ) <span style="float: right;">(P48～P180)</span> 第1節：人間の心理 第2節：人体の構造と機能 第3節：移動・移乗における観察のポイント 第4節：食事における観察のポイント 第5節：入浴・清潔保持における観察のポイント 第6節：排泄における観察のポイント 第7節：着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント 第8節：休息・睡眠における観察のポイント 第9節：人生の最終段階のケアにおける観察のポイント * 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 第3版 「こころとからだのしくみ」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 10 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 老化が及ぼす心理的影響、自己概念と生きがいについて理解する。 ② 加齢にともなう身体機能の変化や日常生活への影響を理解する。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 4 巻 「こころとからだのしくみ」 第 3 章 老化に伴うこころとからだの変化 (発達と老化の理解 I) (P182~P219) 第 1 節 : こころの変化と日常生活への影響 第 2 節 : からだの変化と日常生活への影響  * 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第 4 巻 第 3 版 「こころとからだのしくみ」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システム II (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が 7 割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 人間の発達段階と発達課題、各ライフサイクルの発達を理解する。 ② 老年期の様々な心理的課題を理解する。 ③ 高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点を理解するとともに、介護を要する方のよくみられる病気・病態を理解する。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○老年期の発達課題、心理的な課題 (老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等) と支援の留意点について理解している。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 「こころとからだのしくみ」 第4章 老年期の発達、成熟と健康 (発達と老化の理解Ⅱ) (P222～P292) 第1節：人間の成長・発達 第2節：老年期の発達・成熟と心理 第3節：高齢者に多くみられる症状・疾病等		
*質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 第3版 「こころとからだのしくみ」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 10 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項) ] ① 認知症ケアを取り巻く状況やケアの理念と視点を理解する。 ② 認知症による生活障害、中核症状とBPSD (心理・行動) の特徴を理解する。 ③ 認知症の人や家族への支援について、基本的な関わり方を理解することができる。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] ○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 「こころとからだのしくみ」 第5章 認知症の基礎的理解 (認知症の理解 I) (P294~P329) 第1節: 認知症ケアの理念と視点 第2節: 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 第3節: 認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本		
* 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 第3版 「こころとからだのしくみ」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムII (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 医学的側面 (診断、原因疾患とその病態、治療と予防等) からみた認知症を理解する。 ② 認知症の人へアセスメントやかかわり方、チームアプローチの方法、地域生活の支援について理解する。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○代表的な認知症 (若年性認知症を含む) の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 「こころとからだのしくみ」 第6章 認知症の医学的理解と支援の実際 (認知症の理解Ⅱ) (P332~P389) 第1節: 医学的側面からみた認知症の理解 第2節: 認知症の人への支援の実際		
* 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 第3版 「こころとからだのしくみ」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 10 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 障害のとらえ方、法的定義、障害者福祉の基本理念について理解する。 ② 様々な障害による生活上の障害と心理・行動の特徴を理解する。 ③ 障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本や介護負担の軽減について理解する。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害 (身体・知的・精神・発達障害・難病等) による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。  <テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 「こころとからだのしくみ」 第7章 障害の基礎的理解 (障害の理解 I) (P392~P441) 第1節: 障害者福祉の理念 第2節: 障害による生活障害、心理・行動の特徴 第3節: 障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本  * 質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻 第3版 「こころとからだのしくみ」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 介護福祉士実務者研修WEB学習システム II (e-CHJ) 中央法規のWEBシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 遠藤 淳二	時間数 (単位数) 20 時間	(該当する方を選択) 必修 選択
<p>[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項) ]</p> <p>① 医学的側面からみた様々な障害や難病について理解する。</p> <p>② 障害の特性に応じた支援 (アセスメントや個別支援) や、障害のある人がふつうに暮らせる地域づくり、地域のサポート体制について理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。</p> <p>○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第4巻                  「こころとからだのしくみ」</p> <p>第8章 障害の医学的理解と支援の実際 (障害の理解Ⅱ) (P444～P491)</p> <p>第1節：医学的側面からみた障害の理解                  第2節：障害の特性に応じた支援の実際</p> <p>* 質問はFAXにて受け付ける。回答はF A X、メール、電話にて対応する。</p>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士実務者研修 (450時間研修)                  テキスト第4巻 第3版                  「こころとからだのしくみ」中央法規出版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ (e-CHJ) 中央法規のWABシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア	授業の種類 (該当するものを選択) 【講義 (通信)・講義 (面接授業)・演習 (面接授業)】	
授業担当者 佐藤由起子 他	時間数 (単位数) 50時間	(該当する方を選択) 必修 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項)] ① 医療的ケア実施の基礎について理解する。 ② 喀痰吸引について理解する。(基礎的知識・実施手順) ③ 経管栄養について理解する。(基礎的知識・実施手順)		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。 ○医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解している。 ○感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。 ○呼吸のしくみとはたらき、呼吸を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基本的知識を理解している。 ○喀痰吸引における急変・事故発生時の対応などについて理解している。 ○喀痰吸引の実施手順 (口腔内・鼻腔内。気管カニューレ内部) を理解している。 ○消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解している。 ○経管栄養における急変・事故発生時の対応などについて理解している。 ○経管栄養の実施手順 (胃ろう又は腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養) を理解している。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステム e - ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。		
<テキスト該当ページ> 介護福祉士実務者研修 (450時間研修) テキスト第5巻「医療的ケア」 (P2～P216) 第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節：医療的ケア 第2節：安全な療養生活 第3節：清潔保持と感染予防 第4節：健康状態の把握  第2章 喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順) 第1節：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 第2節：高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説		

第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）

第1節：高齢者および障害児・者の経管栄養概論

第2節：高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説

\*質問はFAXにて受け付ける。回答はFAX、メール、電話にて対応する。

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士実務者研修（450時間研修）

テキスト第5巻 第3版

「医療的ケア」中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]

介護福祉士実務者研修WEB学習システムⅡ  
（e-CHJ）中央法規のWABシステムe-ラーニングによる通信修了評価の合格点が7割以上の得点であること。

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア (演習)	授業の種類 (該当するものを選択) 【 講義 (通信) ・ <u>講義 (面接授業)</u> ・ <u>演習 (面接授業)</u> 】	
授業担当者 佐藤由起子 他	時間数 (単位数) 1 8 時間	(該当する方を選択) <u>必修</u> 選択
[授業の目的・ねらい (教育に含むべき事項) ] ① 医療的ケア 演習 演習を通し、喀痰吸引の基礎的知識・実施手順、経管栄養の基礎的知識・実施手順等、医療的ケア実施に必要な知識・技術を学び理解する。  [授業修了時の達成課題 (到達目標) ] ○医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。 ○医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解している。 ○感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。		
[授業全体の概要] ○高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説と手順実施 ○高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説と手順実施 ○救急蘇生法演習		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 日目：喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、吸引の技術と留意点、報告および記録について、実際に手順を行いながら理解する。 ①口腔内 (通常手順) 5 回以上 ②鼻腔内 (通常手順) 5 回以上 ③気管カニューレ内部 (通常手順) 5 回以上  2 日目：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、経管栄養の技術と留意点、報告および記録について、実際に手順を行いながら理解する。 ①胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 5 回以上 ②経鼻経管栄養 5 回以上 ③AED (自動体外式除細動器) を使用した緊急蘇生法の解説と実施 1 回以上 ④手順の実施について、講師より講評を行う		
≪講師・受講生・設備配置≫ グループ分け：受講生 5 名で 1 グループを作り、シミュレータを各 1 台ずつ配置 講師配置：主講師 1 名 + 評価担当講師 1 名の計 2 名を配置		

≪講師の役割≫

主講師

- ①タイムマネジメント（各グループの進捗状況の管理、調整）
- ②受講生の把握（グループの評価担当講師と情報の共有、グループ間移動指示等）
- ③手順、評価基準の解説

評価担当講師

- ①デモンストレーション
- ②受講生の習熟度、適性の把握
- ③主講師と情報共有

≪演習時間の目安≫

1行為1人あたり1回3分で実施する。

1行為の所要時間=3分×5回×5名（最大）=75分

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

テキストを精読し、各自の理解を深めた上で、中央法規のWEBシステムe-ラーニングにおける、通信修了評価の課題を解答させ評価する。

≪テキスト該当ページ≫

介護福祉士実務者研修（450時間研修）テキスト第5巻「医療的ケア」

第4章 演習（P218～P315）

- 第1節：医療的ケア
- 第2節：安全な療養生活
- 第3節：清潔保持と感染予防
- 第4節：健康状態の把握

\* 質問は演習会場にて時間内に受け付ける。回答は基本的にその場で行う。その場での回答が困難な場合は、次回に行う。

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士実務者研修（450時間研修）  
テキスト第5巻 第3版  
「医療的ケア」中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]

規定の演習を全て実施した上で、各行為実施の意義、ケアの留意点、報告・記録の重要性の理解等を総合的に判断し、講師が認定したものを修了とする。